

アナウンサーの発音 (ベトナム歩道 第11回)

著者	寺本 実
権利	Copyrights 日本貿易振興機構（ジェトロ）アジア 経済研究所 / Institute of Developing Economies, Japan External Trade Organization (IDE-JETRO) http://www.ide.go.jp
雑誌名	アジ研ワールド・トレンド
巻	247
ページ	56-56
発行年	2016-04
出版者	日本貿易振興機構アジア経済研究所
URL	http://hdl.handle.net/2344/00002980

日本のテレビやラジオのニュース番組では、NHK、民放を問わず、現在「標準語・共通語」とされる日本語が使用されている。東北方言、関西方言、沖縄方言などでニュース番組が報道されることはほとんどない。

国営放送しかないベトナムでは、全国放送のニュース番組で首都ハノイが位置する北部の発音に基づいて話すアナウンサーが長らく起用されてきた。

そのベトナムで、南部発音の女性アナウンサーが、夜七時から始まる全国放送のメインニュース番組VTV（ベトナムテレビ）1の「一九時のトオイス（時事）」に二〇〇八年から登場した。ホアイ・アインさんである（他方、二〇〇七年一〇月に南部向け放送を行うVTV9が設立されている）。

北部発音と南部発音の違いについてはさまざまな意見、説明があると思われるが、北部発音は声調が六つなのに対して、南部発音では五つだとする説明など、いくつか一般的な解説がある。筆者の印象では、北部発音は抑揚がはっきりしているのに対して、南部の発音はやや緩やかに感じられる。たとえば、ベトナムでは同輩や少し近い関係の男性に対して「Anh」（「兄」を呼ぶ際の親族名称）と呼びかけることがよくあるが、北部発音では「アイン」なのに対して、南部発音では「アン」と聞こえる。また、「Angiang」はメコンデルタに位置する省の名称であるが、北部発音では「アンザン」と聞こえるのに対して、南部発音では「アンジャン」と聞こえる。

月曜日から金曜日まで同じアナウンサーが担当する日本のNHKの看板ニュース番組「ニュースウォッチ9」と異なり、土曜日、日

曜日も含めて毎日放送されるベトナムの「一九時のトオイス」は複数のアナウンサーが日替わりで担当している。

国内ニュースを担当するアナウンサーが画面に向かって右側、国際ニュースを担当するアナウンサーは左側に座り、基本的には最初に国内ニュース、次に国際ニュースという番組構成である。スポーツニュースは、「スポーツ7/24」という別番組として独立しており、「一九時のトオイス」終了後に放送される。

筆者の確認し得た範囲では、本稿執筆現在で中心となる国内ニュース担当のアナウンサーが女性三人、男性一人の計四人、国際ニュース担当のアナウンサーは女性二人、男性一人の計三人となっている。

出演時の衣装は、女性アナウンサーは民族衣装アオザイ、男性アナウンサーは背広にネクタイを着用するのが定型である。

先述したホアイ・アインさんは国内ニュースを主に担当している。柔らかな南部発音で淀みなくニュースを読み伝えるホアイ・アインさんの登場は、南北統一後のベトナムのテレビ放送において画期的なことであった。

VTVウェブサイトに、ベトナムネット配信の情報などによれば、ホアイ・アインさんは共に旧ソ連留学経験を持つ知識人を両親として、一九八〇年にハノイ市で生まれた。五、六歳の時に家族とホーチミン市に移り住み、ホーチミン市人文社会科学大学東洋学部日本科（現在の同大学日本学部の前身）を卒業し、航空会社勤務など若干の回り道を経て現職に就いた。二〇一〇年に国防省勤務の男性と結ばれ、二〇一一年に女兒の母親となり、その後も元気に活躍を続けている。

そして、筆者がホーチミン市赴任中の二〇一四年、新たにもう一人の南部発音の女性アナウンサーが「一九時のトオイス」に登場した。トウイ・ハンさんである。

正面を見据えて堂々とニュースを読み上げるその姿は、「トオイス」出演までにホーチミン市テレビ放送センターで二〇年間に及ぶキャリアを積んできた研鑽と経験の確かさを感じさせる。トウイ・ハンさんの母親も同業だったとのことであり、母親の姿をみて育った影響もあるのかもしれない。

トウイ・ハンさんはホアイ・アインさんと同じくハノイ市生まれであり、ハノイ旧市街に位置するハンバック通りが出生地。三歳の時に南部に移住し、二〇一六年二月上旬現在でホーチミン市在住の夫との間に四歳の男児がいる。

トウイ・ハンさんは、華やかな色合いのアオザイを着用することが多い。トウイ・ハンさんの登場後、ホアイ・アインさんの衣装が少し地味になったように思われる。

二〇〇七年一月に世界貿易機関（WTO）に加盟するなど、ベトナムは国際経済への参入を行動指針としている。そのWTO加盟の翌年にホアイ・アインさんは「一九時のトオイス」に登場した。ベトナムが参加を予定する加盟国間の貿易自由化を企図する環太平洋パートナーシップ（TPP）協定交渉が二〇一五年一〇月に妥結する前年にトウイ・ハンさんが同番組に登場したのは、偶然的の符合であろうか。

さらなる国際経済への参入という課題を前にして一層の南北融和を図ろうという積極的なメッセージとして筆者は理解している。

（てらもと みおる／アジア経済研究所前在ベトナム海外研究員）